

タイ国における中薬〔Ⅱ〕*

木 島 正 夫**

Chinese Drugs in Thailand〔Ⅱ〕

by

Masao KONOSHIMA

Ⅱ タイ国で生産されている主要な中薬類

前述のようにタイ国は古来、南方系中薬の生産地の一つであり、著名なものでも20種以上が数えられる。しかもそのほとんどのものはタイ国内で消費される以外に多量のものが必要かくべからざる南方系中薬として中国本土、日本その他、中薬利用圏各地その他に供給、輸出されている。なお、これらは必ずしも中薬とする目的で輸出される以外に医薬品製造原料、香辛料原料、工業薬品原料、工芸品原料、その他の目的が主である場合もある。

なおここにあげたものは、タイ国特産の中薬類、タイ国が主産地であるが、隣接地域にも生産するもの、タイ国から主として経由輸出されるものなどを合わせて記載した。さらにタイ国に原植物の自生あるいは植栽するもので、その生薬が従来はタイ国に産するものとは知られなかったが、現実にタイ国内の中薬店に商品として見られ、一方、前記の香港、シンガポール市場からの輸入もなく、恐らくタイ国内の中薬業者により自給されているものと考えられるものがあり、これらも合わせて記載した。

なお、これら中薬類のほとんどのものはまた、タイ薬としても利用されていて、両者の性格をもったものである。ただ基原植物が同じでありながら中薬とタイ薬とではその用部（使用部分）の異なるもの、あるいは中薬的用法とタイ薬的用法とでは期待する薬効の異なるものなどが幾つか見られる。これらのものについては今後、個別に比較研究を試みなければならない問題である。

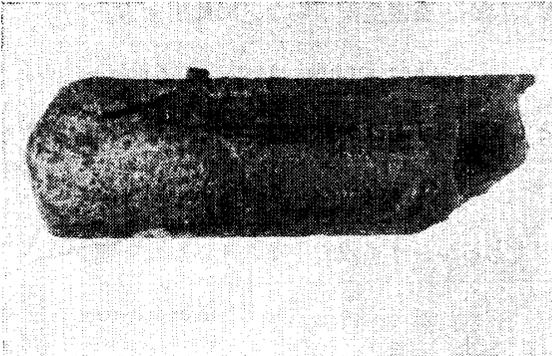
引用文献については本誌11巻3号を参照されたい。

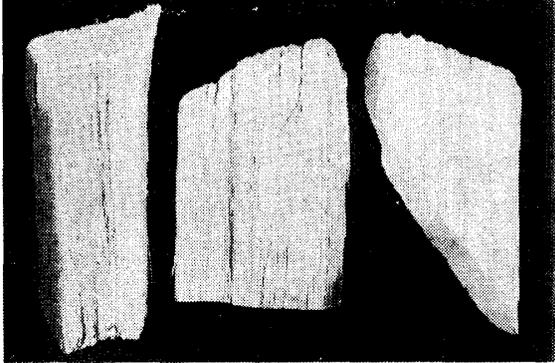
* 前報：本誌11巻3号 pp. 414-432 (1973年12月)

** 京都大学薬学部生薬学教室

Chinese name	Original plant name (Family name)	Thai name	Part used
楮 実 子	<i>Broussonetia papyrifera</i> Vent. (Moraceae)	Po-ka-sa	Fruit
果実の中薬的利用の有無は未確認であり、またタイ薬的利用についても不明。			
大 麻	<i>Cannabis sativa</i> Linn. var. <i>indica</i> Lamark (Moraceae)	Kan-cha	Herb
大 麻 仁			Fruit
大麻の麻薬的利用は衆知のことであるが、その果実の中薬的利用は未確認。			
無 花 果	<i>Ficus carica</i> Linn. (Moraceae)	Ma-du'a-farang	Fruit
苧 麻 根	<i>Boehmeria nivea</i> (L.) Gaudiak. (Urticaceae)	Pan-rami	Root
馬 齒 苋	<i>Portulaca oleracea</i> Linn. (Portulacaceae)	Phak-bia-yai	Herb
タイ国におけるそれぞれの中薬的利用の有無は未確認。タイ薬的利用は中薬的利用と用部、薬効がことなる(ただし <i>P. oleracea</i> はタイ薬的利用なし)。			
青 葙 子	<i>Celosia argentea</i> Linn. (Amaranthaceae)	Ngon-kai	Seed
タイ西北部に野生し、「青葙子」はタイ中薬店に見られるが、タイ薬的利用は不明。 ¹²⁾			
鷄 冠 花	<i>Celosia cristata</i> Linn. (Amaranthaceae)	Ngon-kai	Flower
千 日 紅	<i>Comphrena globosa</i> Linn. (Amaranthaceae)	Banmai-ru-roi	Flower
両種のタイ国における中薬的利用については明らかでないが、タイ薬的利用は用部が異なる。			
蕃 荔 枝	<i>Annona squamosa</i> Linn. (Annonaceae)	Noi-na	Fruit
中薬、タイ薬ともに果実を薬用とするが、中国南部、熱帯地域で利用するだけの地方的中薬にすぎない。			
蓮 子	<i>Nelumbo nucifera</i> Gaertn. (= <i>Nelumbium speciosum</i> Willd.) (Nymphaeaceae)	Bua-luang	Fruit
蓮 鬚			Stamen
タイ薬、中薬ともに同様に利用するものであるが、広く他の中薬利用圏の市場にも輸出し、ほかに蓮房(果托)も同様に輸出する。 ¹⁴⁾			

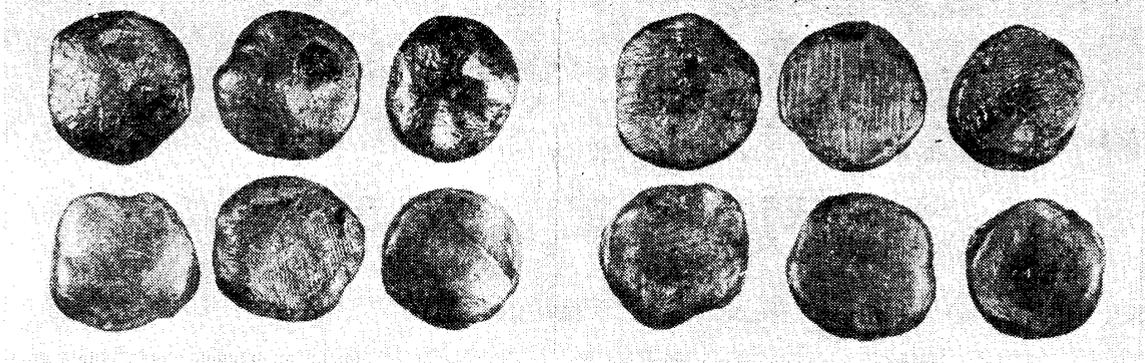
木島：タイ国における中薬〔Ⅱ〕

Chinese name	Original plant name (Family name)	Thai name	Part used
蕺菜	<i>Houttuynia cordata</i> Thunb. (Saururaceae)	Phlu-kae	Herb
タイ薬と中薬とはおおむね類似した使い方をしますが、タイ国で中薬として利用の有無は明らかでない。			
蒟醬葉	<i>Piper betle</i> Linn. (Piperaceae)	Phlu	Leaf
南方地域で使われる地方的中薬。タイ国ではむしろ口嚙料としての利用が多い。			
畢撿	<i>Piper longum</i> Linn.	Phrik-hang	Fruit
	<i>Piper chaba</i> Hunter (Piperaceae)	Di-pi	
中薬とするほか香辛料としての利用が多い。タイ国産はほとんどが後者で輸出もする。前者についてはタイ国における詳細は不明。 ¹⁵⁾			
胡椒 (黒胡椒)	<i>Piper nigrum</i> Linn. (Piperaceae)	Phrik-thai	Black pepper -unripe fruit
(白胡椒)			White pepper -ripe fruit
中薬の利用は少なく、ほとんど香辛料にする。タイ東南地区に栽培し、若干量は輸出するようである。 ¹⁵⁾ 将来タイ国の栽培薬用植物種として有望である。			
藤黄	<i>Carcinia hanburyi</i> Hook. f. (= <i>G. morella</i> T. And.) (Guttiferae)	Rong-thong	Gum-resin
タイ薬と中薬とおおむね同様に使われる。また中薬、顔料等として多量に輸出する。(写真9)			
		<p>写真9 「藤黄」(バンコク薬店で購入)</p>	
相思子 (赤小豆)	<i>Abrus precatorius</i> Linn. (Leguminosae)	Ma-klam-ta-nu	Seed
中薬的利用をするが、その量は少ない。若干量は輸出するという。 ¹²⁾			

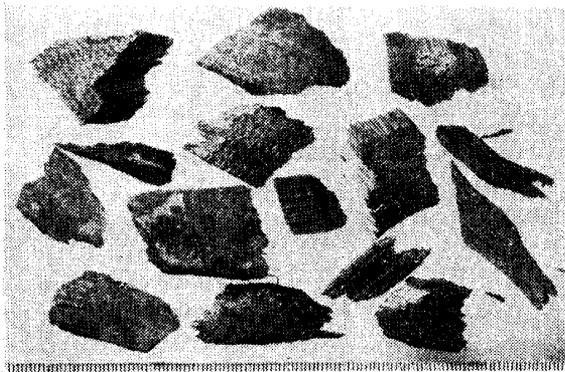
Chinese name	Original plant name (Family name)	Thai name	Part used
阿仙薬 (ペグ 阿仙薬)	<i>Acacia catechu</i> Willd. (Leguminosae)	Si-siat	Pegu-catechu -Wood ex.
タイ国では主として口嚙料, ビルマ産がタイへ流入するものと考えられる。従来はタイ国産のものも本植物によるものと考えられていたが, 筆者らの調査で全く別の植物に基因するものであることを明らかにしたので, これは別に「シャム阿仙薬」と呼称することにした。(p.487参照)			
海紅豆	<i>Adenanthera pavonia</i> Linn. (Leguminosae)	Ma-klam-ta	Seed
南方地域の地方的中薬として利用する。 ¹²⁾			
蘇方木	<i>Caesalpinia sappan</i> Linn. (Leguminosae)	Fang	Wood
中薬あるいは染料原料となり, 香港など経由, 国外にも輸出。タイ薬としての利用も多い。(写真10)			
			
<p>写真10</p> <p>「蘇方木」 バンコク薬店では“Fang”と称し, タイ薬とする。(バンコク市場品)</p>			
白刀豆	<i>Canavaria gladiata</i> (Jacq.) DC. (Leguminosae)	Thua-phra	Seed
タイ国内で中薬的利用をするほか, 香港生薬市場などに輸出する。 ¹²⁾			
阿勃勒	<i>Cassia fistula</i> Linn. (Leguminosae)	Khun	Fruit
タイ国内でタイ薬, 中薬として利用するほか, 香港生薬市場などに輸出する。 ¹⁵⁾			
神黄豆	<i>Cassia nodosa</i> Ham. (Leguminosae)	Kala-phruk	Fruit
中国南部で中薬とするものであるが, タイ国で中薬とするかは不明。 ¹⁵⁾			
望江南	<i>Cassia occidentalis</i> Linn.	Khi-lek-thet	Seed
决明子	<i>Cassia tora</i> Linn. (Leguminosae)	Chum-het-thai	Seed
両種ともタイ北部に野生する。タイ国内でタイ薬, 中薬とするほか, 最近では若干量を輸出する。 ¹³⁾			

木島：タイ国における中薬〔II〕

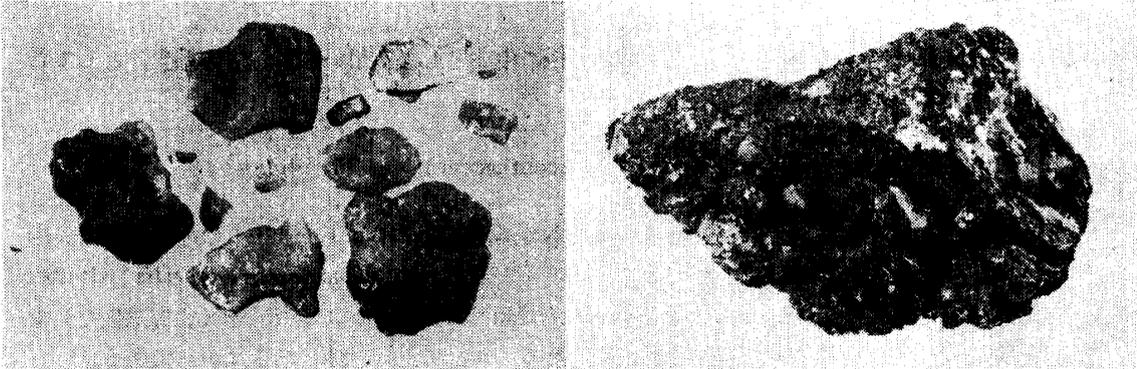
Chinese name	Original plant name (Family name)	Thai name	Part used
白扁豆	<i>Dolichos lablab</i> Linn. (Leguminosae)	Thua-paep	Seed
木腰子	<i>Entada phaseoloides</i> (L.) Morr. (= <i>E. scandens</i> Benth.) (Leguminosae)	Sa-ba-morn	Seed
	前者は植栽，後者は水辺に近く自生するものが多く，国内でタイ薬，中薬とし，少量の輸出がある模様。中薬としての一般需要は少ない。 ¹³⁾		
紫檀	<i>Pterocarpus santalinus</i> Linn. (Leguminosae)	Chan	Wood
	タイ国内の利用は不明。中薬としてよりも工芸材その他として国外に輸出。		
胡蘆巴	<i>Trigonella foenum-graecum</i> Linn. (Leguminosae)	Sat	Seed
	タイ薬としての利用は不明。中薬として利用するが，国外への輸出の有無は不明。		
蒺藜子	<i>Tribulus terrestris</i> Linn. (Zygophyllaceae)	Khok-kra-sun	Fruit
	タイ薬は全草を使うが，タイ国内での中薬的な利用は明らかでない。		
亜麻仁	<i>Linum usitatissimum</i> Linn. (Linaceae)	Pan	Seed
	タイ薬の利用は明らかでないが，油脂（亜麻仁油）原料あるいは油脂として輸出する。		
巴豆	<i>Croton tiglium</i> Linn. (Euphorbiaceae)	Sa-lot	Seed
	タイ薬，中薬ともに同じ目的に利用，また国外中薬市場に輸出している。 ¹³⁾		
蓖麻子	<i>Ricinus communis</i> Linn. (Euphorbiaceae)	Ma-la-hung	Seed
	種子のタイ薬，中薬的な利用は少ない。油脂（蓖麻子油）原料あるいは油脂として多量国外に輸出され，輸出統計ランクの上位にある。 ¹³⁾		
佛手柑	<i>Citrus medica</i> Linn. var. <i>sarcodactylis</i> Swing. (Rutaceae)	Som-mu	Peri-carp
	タイ薬の利用はなく，中薬とするものであるが，その利用の有無は不明。		
鴉胆子	<i>Brucea amarissima</i> Merr. (= <i>B. sumatrana</i> Roxb.) (Simaroubaceae)	Ratcha-dat	Fruit
	タイ薬，中薬の利用はもちろん，熱帯アジアでは広く使われる生薬。さらに国外中薬市場にも輸出されている。 ¹⁴⁾		
橄欖	<i>Canarium album</i> Raeush. (Burseraceae)	Ka-na	Fruit
	中薬とするが，需要の多いものではない。また，タイ薬としての薬効は明らかでない。		

Chinese name	Original plant name (Family name)	Thai name	Part used
没 薬	<i>Commiphora molmol</i> Engl. (= <i>C. myrrha</i> Holmes) (Burseraceae)	Mo-yob	Resin
中薬としてよりは薫香料としての利用が多い。タイ国からの産出と輸出を記録するものが多い。			
苦 楝 皮	<i>Melia azedarach</i> Linn.	Lian	Bark
川 楝 子	<i>Melia azedarach</i> Linn. var. <i>toosendan</i> Makino (Meliaceae)		Fruit
タイ薬の利用と中薬的利用とでは用部がことなるが、おおむね同様の目的に使われている。			
竜 眠	<i>Euphoria longana</i> Lamark (= <i>Nephelium longana</i> Cambess.) (Sapindaceae)	Lam-yai	Fruit
荔 枝	<i>Nephelium litchi</i> Camb. (Sapindaceae)	Lin-chi	Fruit
中薬的利用は多くない。タイ薬的利用も定かでない。むしろ食用果実としての需要が多く、輸出している。			
急 性 子	<i>Impatiens balsamina</i> Linn. (Balsaminaceae)	Thian	Seed
中薬としての利用の有無は不明。タイ薬的利用とは用部(葉)がことなる。			
酸 棗 仁	<i>Zizyphus jujuba</i> Linn. var. <i>spinosa</i> Bunge (Rhamnaceae)	Phutsa	Seed
最近カンボジア、タイ方面から「酸棗仁」が輸出され、わが国にも輸入されている。しかし「酸棗仁」は中国北部産の生薬で、香港から南方諸地域に輸出している記録もあり、その基原植物なども合わせて検討する必要がある。タイ国に本植物が自生あるいは植栽されているかも疑問であり、タイ薬として種子は用いない。 ¹³⁾			
シ ャ ム 阿 仙 薬	<i>Pentace burmanica</i> Kurz. (Tiliaceae)	Si-siat	Siam-catechu -Bark ex.
			
写真11 「シヤム阿仙薬(銭様)」 左：表面，右：裏面（バンコク市場品）			

木島：タイ国における中薬〔Ⅱ〕

Chinese name	Original plant name (Family name)	Thai name	Part used
	タイ産の阿仙薬であり、同国内需要（主として口嚙料）のほか、塊状のもの（「烏甘密」と称す）は従来から「ペグ阿仙薬」として香港市場などに輸出されている。なお「シャム阿仙薬」は今回の調査に際して明らかにしたものである。（写真11）（p. 485参照）		
冬 葵 子	<i>Abutilon indicum</i> G. Don (Malvaceae)	Khrop-fan-si	Seed
綿 根	<i>Gossypium arboreum</i> Linn.	Fai-daeng	
	<i>Gossypium brasiliense</i> Macfad. (= <i>G. barbadense</i> Linn. var. <i>accuminatum</i> Roxb.)	Fai-thet	Root
	<i>Gossypium herbaceum</i> Linn. (Malvaceae)	Fai-khao	
黄蜀葵根	<i>Hibiscus abelmoschus</i> Linn. (= <i>Abelmoschus moschatus</i> Medik.) (Malvaceae)	Cha-mot-ton	Root
これらのものはタイ薬と中薬とで利用が若干ことなる。上記のものが中薬としてタイ国内で利用されているかは明らかでない。			
胖 大 海 (大海子)	<i>Sterculia scaphigera</i> Wall. (= <i>Scaphyium affine</i> Pierre.) (Sterculiaceae)	Phung-tha-lai	Fruit
タイ薬と中薬との使い方は類似し、中薬として香港生薬市場などに輸出。			
沈 香	<i>Aquilaria agallocha</i> Roxb. (Thymeleaceae)	Mai-hom Krit-sa-na	Wood
タイ薬、中薬の使い方はよく似ている。タイ、カンボジアは古来「沈香」の生産地として著名であり、薬物としてよりは薫香料として輸出されているが、最近はその産量が減少している。（写真12）			
			
		写真12	
“Krit-sa-na” と称し、タイ薬とする「沈香」であるが、ほとんど樹脂分を含まない劣品で、薫香料としての用をなさないものである。			
大 風 子	<i>Hydonocarpus anthelmintica</i> Pierre <i>Hydonocarpus</i> spp. (Flacourtiaceae)	Kra-bao	Seed
タイは古来、その特産国の一つであり、タイ薬、中薬ともに治瀦薬とする。生薬あるいは大風子油として国外に多量輸出されている。ただその生産状況についてはなお明らかでない点が多い。 ¹³⁾			

Chinese name	Original plant name (Family name)	Thai name	Part used
冬瓜子	<i>Benincasa cerifera</i> Savi (= <i>B. hispida</i> Cogn.) (Cucurbitaceae)	Fak	Seed
	タイ薬としての利用は明らかでないが、中薬としてタイ薬店に見られる。		
瓜 帶	<i>Cucumis melo</i> Linn. (Cucurbitaceae)	Taeng-thai	Calyx
	タイ薬, 中薬としての利用は不明。		
南瓜仁	<i>Cucurbita moschata</i> Duchesne (Cucurbitaceae)	Fak-thong	Seed
	タイ薬的利用と同じでタイ国薬店で中薬として扱われているが、食品としての利用が多い。		
絲瓜絡	<i>Luffa cylindrica</i> Roemer (= <i>L. aegyptica</i> Roxb.) (Cucurbitaceae)	Buap-khom	Fascicular vascular bundle
	中薬的利用とタイ薬的利用とはことなるが、中薬とされているかは不明。		
木 鼈 子	<i>Momordica cochinchinensis</i> Spreng. (Cucurbitaceae)	Fak-khao	Seed
	タイ薬, 中薬とも同様に使っている。南方系中薬の一つで中薬利用圏市場に輸出される。 ¹³⁾		
丁 子	<i>Eugenia aromatica</i> Kuntze (= <i>E. caryophyllata</i> Thunb.) (Myrtaceae)	Kan-phlu	Flower bad
	元来タイ国産のものではない。近年植栽され、成績良好であるが生薬の生産は未だ少量で国内の需給もみたすにいたらず輸入する。将来タイ国の栽培植物種として有望である。		
石 榴 皮	<i>Punica granatum</i> Linn. (Punicaceae)	Thap-thin	Root brak
石榴果皮			Peri-carp
	タイ薬, 中薬ともにおおむね同様に使われるが輸出はない。		
使 君 子	<i>Quisqualis indica</i> Linn. (Combretaceae)	Lep-mu-nang	Fruit
柯 子	<i>Terminalia chebula</i> Retz.	Samo-thai	Fruit
	<i>Terminalia bellerica</i> Roxb. (Combretaceae)	Samo-phi phek	
藏 青 果	<i>Terminalia citrina</i> Roxb. (Combretaceae)	Samo-di-ngu	Unripe fruit
	タイ薬, 中薬いずれも同じように使われ, 南方系中薬として中薬利用圏市場に輸出する。		
蒔 蘿 子	<i>Anethum graveolens</i> Linn. (Umbelliferae)	Thien-khao-plu'ak	Fruit

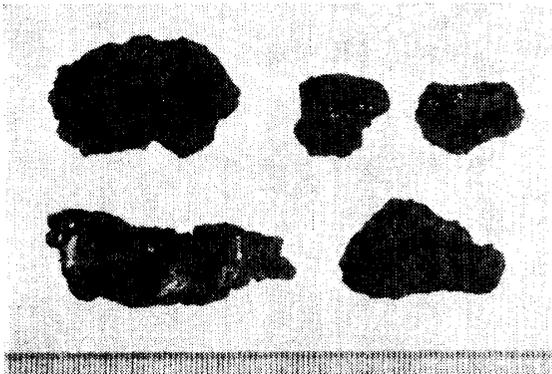
Chinese name	Original plant name (Family name)	Thai name	Part used
胡 荽 子	<i>Coriandrum sativum</i> Linn. (Umbelliferae)	Phak-chi	Fruit
<p>両種とも外来植物で多量に栽培されるが、タイ国ではタイ薬としてよりは香辛料としての需要が多く、ことに後者は輸出する反面、一方ではその倍量以上の輸入が見られる。また、前者はタイ国内で「小茴香」との間にタイ名と品物とに混乱が見られる。</p>			
シャム安息香	<i>Styrax benzoides</i> Craib. <i>Styrax betogensis</i> Fletcher <i>Styrax tonkinensis</i> Craib et Hartwich (Styracaceae)	Kam-yan	Resin
<p>元来、その生産品の主はラオスであるが、ラオスからタイに搬入、バンコクから輸出されるためシャム安息香の名称がある。タイ国内にも若干の生産があるかもしれない。今回の調査では未確認。極めて高級品でスマトラ安息香よりは高級品である。輸出額も上位にランクされている。(写真13)</p>			
			
<p>写真13 「シャム安息香」 左：「アーモンド」と称する最高級品，右：普通品（バンコク市場品）</p>			
茉莉花	<i>Jasminum sambac</i> Ait. (Oleaceae)	Ma-li	Flower
<p>タイ薬と同様に中薬としても用いる。</p>			
馬 錢 子 (ホミカ)	<i>Strychnos nux-vomica</i> Linn. (Loganiaceae)	Ma-tung	Seed
<p>タイ薬と中薬とは同様に用いられるが、さらに製薬原料としての南方系生薬の一つとして広く国外に輸出する。¹³⁾</p>			
荊 子	<i>Vitex negundo</i> Linn. (= <i>V. paniculata</i> Lam.) (Verbrnaceae)	Khon-thi -khe-ma	Fruit
<p>タイ薬的利用と用部・薬効がことなる。中薬的利用の有無は不明。</p>			
蘿 勒	<i>Ocimum basilicum</i> Linn. (Labiatae)	Hora-pha	Herb
<p>南方地域で需要のある中薬，タイ国における中薬的利用は不明。</p>			

Chinese name	Original plant name	(Family name)	Thai name	Part used
廣 藿 香	<i>Pogostemon patchouly</i> Pellet. (= <i>P. cabin</i> Benth.)	(Labiatae)	Phim-sen-ton	Herb
	中薬的な利用もあるが、むしろ香料生薬として国外に輸出されている。			
番 椒	<i>Capsicum annum</i> Linn.		Phrik	Fruit
	<i>Capsicum frutescens</i> Linn.	(Solanaceae)	Phrik-chi-fa	
	中薬的利用はほとんどなく、むしろ香辛料として国内需要は極めて大きく、とくに前者の変種は輸入もある。			
洋 金 花	<i>Datura metel</i> Linn.	(Solanaceae)	Lamphong	Flower
	中薬的利用とともにタイ薬的利用もあり、少量は国外にも輸出している。			
木 蝴 蝶	<i>Oroxylum indicum</i> (L.) Vent.	(Bignoniaceae)	Peka	Seed
	タイ国中部に多い植物で、タイ薬と同様に中薬としても用いられ、南方系生薬として若干量を国外に輸出する。 ¹³⁾			
天 仙 子 (偽)	<i>Hygrophila quadrivalvis</i> Nees	(Acanthaceae)	Thoi-thing	Seed
	元来、タイ薬として利用されるものであるが、最近では中薬「天仙子」の偽品として香港中薬市場などに広く輸出されている。真正「天仙子」は <i>Hyoscyamus agrestis</i> Kitaibel et Schules (= <i>H. niger</i> L. var. <i>chinensis</i> Makino) シナヒヨスの種子(北方系生薬)であるが、現在香港中薬市場には真正品はなく、すべて上記、偽天仙子ばかりである。 ¹³⁾			
芝 麻 (胡麻)	<i>Sesamum indicum</i> Linn.	(Pedaliaceae)	Nga	Seed
	中薬的利用などについては明らかでない。「胡麻」は日本名。			
車 前 子	<i>Plantago major</i> Linn.	(Plantaginaceae)	Phak-kad-nam	Seed
車 前 草				Herb
	タイ薬の使いかたは中薬に似る。しかし中薬として使われているかは疑問。香港生薬市場からタイ国に「車前子」が輸入されている。			
半 边 蓮	<i>Lobelia radicans</i> Thunb.	(Campanulaceae)	Pra-chan-krüng-seeek	Herb
	南方地域の地方的中薬であるが、タイ国での中薬としての使用の有無は不明。			
艾 葉	<i>Artemisia vulgaris</i> Linn. <i>Artemisia spp.</i>	(Compositae)	Kod-chula-lam-pha	Herb
	上記植物はタイに野生するが、「艾葉」は香港からも輸入する。上記植物がタイで中薬的利用をしているのかは明らかでない。			

木島：タイ国における中薬〔Ⅱ〕

Chinese name	Original plant name (Family name)	Thai name	Part used
艾片 (艾納香)	<i>Blumea balsamifera</i> DC. (Compositae)	Nad-yai	Ess. oil
本植物から得られる精油脳分 1-borneol をタイ国で得て中薬としているかは明らかでない。普通は合成の borneol である。			
金蓋花	<i>Calendula officinalis</i> Linn. (Compositae)	Dao-ruang -farang	Flower
タイ薬の利用および中薬の利用の有無不明。			
大蒜	<i>Allium sativum</i> Linn. <i>Allium chaenoprasum</i> Linn. (Liliaceae)	Ka-thiam Ka-thiam-chin	Rhizome
中薬の利用とともに食品香料としての利用は極めて多い。			
蕪子 (蕪菜子)	<i>Allium tuberosum</i> Roxb. (Liliaceae)	Kui-chai	Seed
バンコクなどの中薬店などで見られるが、はたしてタイ国産かは不明。 ¹²⁾			
百部	<i>Stemona tuberosa</i> Lour. (Stemonaceae)	Non-tai-yak	Root
“Non-tai-yak” と称するタイ薬は必ずしも中薬の「百部」とは限らないが、「百部」として扱われるものはすべて本植物に基因するものである。国外への輸出は明らかでないが、香港生薬市場で取引されている「百部」もまた本植物に基因するものばかりである。			
射干	<i>Belamcanda chinensis</i> Willd. (Iridaceae)	Wan-hang -chang	Rhizome
タイ薬の利用と中薬の利用とでは用部、薬効がことなり、中薬の利用の有無は未確認。			
茅根	<i>Imperata cylindrica</i> Beauv. (Gramineae)	Ya-kha	Root
中薬としてタイ中薬店に見られ、また国外にも輸出している。			
檳榔子	<i>Areca catechu</i> Linn. (Palmae)	Mak	Seed
大腹皮			Peri-carp
「檳榔子」のほとんどのものは口嚙料として国内消費されるが、一部は中薬として利用され、また国外にも輸出される。「大腹皮」については未確認。			
菖蒲根	<i>Acorus calamus</i> Linn. (Araceae)	Wan-nam	Rhizome
石菖蒲	<i>Acorus gramineus</i> Schott. (Araceae)	Wan-nam-lek	Rhizome
タイ薬、中薬同じように利用する。			

Chinese name	Original plant name (Family name)	Thai name	Part used
香付子	<i>Cyperus rotundus</i> Linn. (Cyperaceae)	Ya-haeo-mu-yai	Rhizome
	タイ薬, 中薬同じように利用するが, 最近ではさらに香港などの中薬市場にも輸出, わが国にも輸入されることがある。		
芋薺草	<i>Eleocharia tuberosa</i> Roem. et Schultes (Cyperaceae)	Haeo	Herb
	タイ薬にするほか, 中薬の利用は不明。タイ薬と用部はことなる。 ¹²⁾		
良薑	<i>Alpinia officinarum</i> Hance (Zingiberaceae)	Kha-lek	Rhizome
	タイ薬, 中薬とするほか, 香味, 香辛料, 特にタイ式カレーの主原料として多量の国内消費があり, また“Kha-lek”と称するものが本植物の根茎ただ一種であるか疑問が多い。		
白豆蔻	<i>Amomum krervanh</i> Pierre (Zingiberaceae)	Kha-wan	Fruit
縮砂	<i>Amomum xanthioides</i> Wall. (Zingiberaceae)	Reu	Seed
	両生薬は古来, 南方産の重要中薬であり, タイ東南部, カンボジアがその主産地である。タイ国内での中薬としての利用はもちろん, 広く中薬利用圏各地に多量に輸出されている。また前者はタイ国内の香味・香辛料としての利用も多い。 ¹⁴⁾		
薑黄	<i>Curcuma aromatica</i> Salisb. (Zingiberaceae)	Wan-nang-kham	Rhizome
鬱金	<i>Curcuma domestica</i> Valetton (= <i>C. longa</i> Linn.) (Zingiberaceae)	Kha-min-chan	Rhizome
莪朮	<i>Curcuma zedoaria</i> Rosc. (= <i>C. caesia</i> Roxb.) (Zingiberaceae)	Kha-min-oi	Rhizome
	3者は近縁植物の根茎であるが, タイ薬, 中薬ともにその利用法はややことなり, 同時にタイ薬と中薬との薬用目的も若干ことなる。タイ国では両用の目的で利用される一方, 民間薬的な利用とともに香味, 香辛料としての利用もまた多く, 週末市場などでも多量に販売されている。		
山柰	<i>Kaempferia galanga</i> Linn. (Zingiberaceae)	Pro-hom	Rhizome
	タイ薬, 中薬おおむね同様に用いる。ただタイ国では香味・香辛料として多量に用いられる。本植物の野生は多いが, 生薬が国外に輸出されるかは明らかでない。またタイ国には近縁種が二, 三種あり, “Pro-hom”と称するものが, 本植物一種のみか疑問である。		
生薑	<i>Zingiber officinale</i> Roscoe (Zingiberaceae)	Khing	Rhizome
	タイ薬, 中薬とも同様に用いる。タイ国では広く栽培しているが, 国外に輸出するかは明らかでない。		

Chinese name	Original plant name (Family name)	Thai name	Part used
紫 鉚	<i>Coccus lacca</i> Kew (Hemiptere)	Krung	Animal drug
<p>タイ東北部に自生する諸種植物の樹枝に <i>C. lacca</i> ラックカイガラムシが寄生して、雌虫の体表に分泌する樹脂状物質の団結したもので、中薬としては止血薬として内用および外用に用いるが、現在はアルコール溶液を丸剤の外皮、工業用ワニス（塗料）原料等に重要で、タイ国はその著明な生産国として諸外国に輸出している。（写真14）タイ国の重要輸出品の一つである。</p>			
			
<p>写真14 「紫鉚」（バンコク市場品）</p>			

本調査研究にあたり、タイ国の輸出入生薬資料の提示を受け、バンコク聯華薬業公会理事長翁泰山氏を紹介していただいた保健衛生省次官補 Dr. Komol Pengsritong, 種々の資料と標品の提供を受けたタイ国の福安堂、恵濟堂（以上バンコク）、E. A. Latomwala Co.（チェンマイ）、光泰堂（チャンタブリ）、香港の永大行、協成泰、福源号、公泰行、民豊行、福安泰行、シンガポールの聯盛祥薬行など多数の薬店、特に数度にわたり標品の送付をわずらわせた恵濟堂周舫氏、また調査研究に協力していただいた当時武田薬工バンコク事務所の竹中文男氏、大阪三国K. K. 永井吉澄氏、日盛K. K. その他多くの方々、ならびに昭和46年度調査隊隊員各位に深謝の意を表します。

付記：552 ページ「丁子」の基原植物の学名は、最近 “*Syzygium aromaticum* (= *E. aromatica*)” が採用されている。